

なごみ会主催第12回県民健康フェア



理事 稲富 仁

県下の医療福祉介護関係 21 団体が参加する沖縄県医療保険介護連合（なごみ会）と公益財団法人 沖縄県保健医療福祉事業団の共催により第12回県民健康フェアが令和7年8月17日（日）沖縄コンベンションセンター展示棟にて開催された。

開会式では沖縄県医療保健介護連合 田名毅会長と公益財団法人沖縄県保健医療福祉事業団 喜舎場健太専務理事から主催者挨拶、沖縄県保健医療介護部 糸数公部長より以下のとおり来賓挨拶が述べられた。

田名 毅 沖縄県医療保健介護連合会長 (沖縄県医師会長)

かつて“健康長寿日本一”と称された沖縄県は、現在はその立場が大きく揺らいでいる。健康で自立した生活を送れる期間「健康寿命」においては、県内の男性が約71.6歳、女性が約74.3歳と全国平均を下回る結果となっている。さらに、働き盛り世代における生活習慣病の増加や、20～60代の早期死亡率の高さなども深刻な課題である。これらの背景には、日々の暮らしの中での健康意識の低下や、予防の意識が十分に根づいていないことが指摘されている。健康づくりは、子どもの頃からの教育が何よりも重要である。未来を担う子どもたちに、正しい生活習慣や健康観を育むことは、沖縄の健康長寿復活の土台となると考えている。本フェアでは、来場者が自身の健康について見つめ直し、楽しく学べる機会となるよう、各種健康相談、骨密度測定、体験コーナー、さらにスタンプラリー抽選会など、多彩な内容を準備している。子どもたちにとって自分自身と向き合う第一

歩として、大人の皆様家族で健康を考えるきっかけとなることを願っている。

また、2040年には65歳以上の人口が国全体の35%を占めると見込まれ、医療提供体制の確立が喫緊の課題となっている。医療と介護のより一層の連携が求められる中、昨年度より介護関係団体になごみ会へご加入いただき、今回、フェアに初めて参加していただいている。

医療・福祉・介護の多様な関係団体が連携して活動する「なごみ会」として、今後も県民の保健・医療・福祉を全力で支えていきたい。健康長寿の復活に向けて、県民一丸となって取組んでいきたい。

喜舎場 健太

公益財団法人沖縄県保健医療福祉事業団専務理事

私ども沖縄県保健医療福祉事業団は、1974年3月の設立以来、県民の健康づくりを支えるべく、保健、医療、福祉の各分野において、様々な事業を展開しているところである。

沖縄県は、令和6年3月に「健康おきなわ21（第3次）」を策定し、「個人の行動と健康状態の改善」、「健康を支える社会環境の質の向上」、「生涯を通じた健康づくり」の3つを基本的方向に掲げている。当事業団においても、この指針に基づき、健康情報の発信や生活習慣の改善を促す取組を、県内の保健医療介護関係団体で構成される「なごみ会」と連携して進めている。本フェアは、この「なごみ会」の21の構成団体が連携し、県民の皆様の健康づくりを応援する目的で開催している。各ブースでは、健康・栄養相談、血管年齢や骨密度測定など、日ごろなかなか体験できない貴重な機会を用意

している。気軽にブースを回っていただき、ご自身の健康と向き合うきっかけとしていただければ幸いである。

本日のイベントが、皆様の健康づくりに役立ち、「健康長寿おきなわ」の実現に向けた一助となることを願っている。

糸数 公 沖縄県保健医療介護部長

本県では、働き盛り世代の年齢調整死亡率が高いことに加え、今後 85 歳以上の人口増加や生産年齢人口の減少がさらに進むことが予測されている。将来の高齢化の進展を見据えると、医療や介護の複合ニーズを併せ持つ高齢者が増加することが見込まれるため、従来の枠組みを超えて、人と人、人と社会がより一層つながり、生きがいと役割を持ち、助け合いながら生活を継続していく地域づくりが非常に重要と考えている。

県では、健康経営をはじめとした働き盛り世代の健康状態改善など、健康長寿復活への取組をより一層推進するとともに、市町村等と連携を図りながら、地域で必要な支援が包括的に提供される「地域包括ケアシステム」の更なる深化・推進と、医療提供体制の整備に向けて取り組んでいる。これらの取組を支えるためには、本日のテーマである「ゆいマールの輪でつなぐ健康長寿～笑顔あふれる 100 年しまライフ～」に象徴されるように、病院や施設、在宅や地域等で、人々の暮らしや心に日頃から寄り添っていただいている、なごみ会構成団体の存在が不可欠である。県民の健康と命を守るために、日頃からご尽力されている皆様に改めて敬意を表すとともに、フェアの盛会を祈念する。

その後、ステージでは沖縄 Let's プチ体操（日本健康運動指導士会沖縄県支部）、認知症の予防体操・転倒予防体操（沖縄県理学療法士協会）、8020 達成者表彰式（沖縄県歯科医師会）が行われた。フェア当日は天候にも恵まれ、今回の来場者数は 1,216 人であり、前回より多くの方が来場された。また、予定通り夏休み期間に開催されたこともあり小学生のお子さんを連れた

家族が目立った。例年同様、なごみ会全ての団体が、各々の専門性の特徴を生かしたブースを設営し、機器やポスターなどを活用し、職種への理解及び健康への興味関心を高めてもらうよう工夫された。また、各ブースを回り健康関連グッズなどが貰えるスタンプラリーには大勢が参加された。医師会ブースでは OMOTOKAI MEDEICAL TEAM による手術体験、心肺蘇生、気道確保体験コーナー、おきなわ津梁ネットワークの説明及びその場での登録、医師による健康相談、名桜大学ヘルスサポートの学生による血圧測定・血管年齢・糖化度・体組成・ペジチェックなどの測定を行った。今回も隣のブースである検査技師会で行われた頸動脈エコー検査コーナーは無料で受けられることもあり大人気であった。検査から有所見者を医師会ブースに繋がれた方や、その他の相談を含め約 40 人の健康相談を行った。暫く相談を担当していただいた田名会長を見つけて長時間話し込んで満足された様子の方も居た。津梁ネットワーク登録者は 10 人であった。名桜大学の学生たちによる健康度測定には 145 人が参加され、いつもながら賑わっていた。別件で来沖されていた自見はなこ先生も会場に足を運んでいただいた。田名会長と一緒に各ブースを回っていただき、なごみ会メンバーも来場者も大変喜んでいた。

また、来場者のアンケートには（集計数 650 件）女性が 416 人・男性 230 人にご回答いただいた。一般的に健康関連イベントへの参加は高齢者が多い傾向が見られるが、夏休みという事もあり今回のフェアでは 10 代が 197 人、続いて 40 代が 138 人とお子さん連れの参加が多くかった。ちょうど夏休みの課題作成に最適なイベントではないかと思われる。また、参加者の来場者の状況については、初回参加の方が 75%。ポスターやチラシで来場された方と口コミで来場された方が各々 40% 強であった。来場者からは自らの健康を振り返ることができて良かった、無料なのが良いという意見や手術体験をはじめ子供の職業体験は好評の意見をいただいた。一方受付に時間がかかる、各ブースで何をしているのかわかりづらい、チラシには予

約制と記されていなく希望の体験ができなかつた等たくさんのご意見をいただいた。全体的評価としては94%の方がフェアについて良かったと回答された。

運営側の「課題点・改善要望」として、来場者がわかりやすいように、各ブースにパンフレットに合わせた番号を掲げてはどうかという意見や、駐車場係をアルバイトに依頼してはどうか、健康補助食品は服用中の薬との飲み合せに注意が必要なため、今後は景品として扱わない方が望ましいなど様々な意見があつたことから次回開催時の参考にさせていただきたい。

収支に関しては、今年度は昨年度に比べ協賛金が減少したこと、物価高騰等の影響により各団体の負担金額が増加してしまった。

当フェアは今回で12回目の開催となった。近年、わが国における少子高齢化に伴う労働力不足は深刻であり、特に医療・介護ニーズが高まる中、人材の確保が極めて重要である。そのため、従来の県民健康フェアが担ってきた健康啓発に加え、令和8年度から対象を若年層にも

拡大し、医療・介護界の職業観の育成と就業意識の向上に資する新たな取組みも実施していくことを県医師会及び県保健医療福祉事業団からの意見が出ており、イベント名称も「なごみ会県民健康フェア」から変更するという案も出ている。それらは11月に開かれるなごみ会役員会で協議される予定であり、皆様からのたくさんのアイデアをお待ちしている。

今回は予定通りに夏休みの開催となり、皆様のご協力により無事フェアを終えることが出来た。関係者各位、並びに当日ご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げますとともに、会員並びに関係機関、各企業より協賛広告並びに協賛金、ブース出展、協賛品提供など多くのご協力を賜り感謝申し上げる。

次年度の県民健康フェアは、現時点で令和8年8月16日（日）の12:00～16:00、沖縄コンベンションセンター展示棟での開催を計画している。来年度のフェアにつきましても皆様のご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げる。

12回グラム

ステージイベント

開会式	内 容
12:00～12:10	主催者挨拶：田名 翔（沖縄県医療保健介護連合会長・沖縄県医師会会長） 喜寿堂健太（沖縄県保健医療福祉事業団専務理事） 来賓祝辞：糸数 公（沖縄県保健医療介護部長）
12:15～12:30	沖縄L e t's ブース体操（日本健康運動指導士会沖縄県支部） ほか、認知症の予防体操・転倒予防体操（沖縄県理学療法士協会）、 8020達成者表彰式（沖縄県歯科医師会）

ブースイベント

団体名	内 容
① 沖縄県医師会	①OMOTOKAI MEDICAL TEAM 手術体験クラス ②診察体験・脈拍・心音聽診コーナー ③おきなわ津梁ネットワークを活用した健康相談 ④名校大学・ハルスサポート学生による健康測定・身体組成・血管年齢、血圧測定、AGEs（糖化）, ベジチェック
② 沖縄県歯科医師会	①Dōチェックプログラムによる保健指導（お口をあけず質問で答える歯科健診） ②あなたの唇の力は？（口唇力測定） ③在宅歯科・障害者歯科診療相談コーナー ④お口の細菌観察コーナー
③ 沖縄県歯科衛生士会	①口腔ケア相談コーナー(乳幼児期～老年期) ②歯科用グッズ展示・パネル展示 ③知っておきたい妊婦のむし歯予防、歯周病予防 ④フッ素漱口水体験 ⑤咬合カテスト
④ 沖縄県歯科技工士会	①かぶせもの、入れ歯などの補綴物相談コーナー
⑤ 沖縄県薬剤師会	①健康とおくすり相談会（妊娠・授乳中の薬、禁煙相談、漢方・サプリメント等） ②子ども向け調剤体験と楽しい実験 ③オーバードーズに関すること ④パネル展示（薬剤師のお仕事、かかりつけ薬剤師・薬局機能、麻薬・覚せい剤等） ⑤薬学会に開催する講座相談
⑥ 沖縄県看護協会	①健康チェック・骨密度測定・血管年齢測定・ペジチェック ②健康相談・成人・妊産婦・血压測定
⑦ 沖縄県栄養士会	①フードモデルを活用した、パソコンによる食事バランスチェック（SATシステム） ②栄養相談
⑧ 沖縄県臨床検査技師会	①運動脈エコー検査（先着100名） ②臨床検査展 ・ミクロの世界体験（血液細胞・がん細胞） ・手指衛生・血液型について

ブースイベント

団体名	内 容
⑨ 沖縄県柔道整復師会	①パネル展示（ボランティア活動） ②整体・骨のかかり方 ③エコー・鏡検体験 ④テーピング体験
⑩ 沖縄県理学療法士協会	①認知症予防体操（ラバーを使用した体操） ②パネル展示 ・生き百、スクエアステップ・シリリハ、メタボ、ロコモ、肩・腰・膝・PTの役割、PTの活躍の場 ③相談コーナー
⑪ 沖縄県作業療法士会	①デジリハ体験 ②自助具展示・体験コーナー ③脳力トレーニング ④作業療法士による生活の相談コーナー ⑤リハビリ進路相談コーナー
⑫ 沖縄県言語聴覚士会	①相談・飲み込み・聞きこえ、言葉、子どもの発達等に関して ②展示・バネル、嚥下食 ③体験：嚥下検査、嚥下検査、嚥下食試食、嚥下食作成（とろみ水等）
⑬ 沖縄県放射線技師会	①骨密度測定（無料） ②放射線被ばく医療における各種検査の相談 ③診療放射線技師紹介（職業紹介） ④進学相談
⑭ 沖縄県鍼灸師会	①鍼灸治療の効果をわかりやすく示したパネル展示 ②鍼灸治療を知ってもらうための簡単な鍼灸体験
⑮ 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会	①医療ソーシャルワーカーの職能紹介 ②制度・病院機能のイメージ ③沖縄県における入退院支援連携に関する基本的な心得について ④「アドバイス・由アブランシング（人生会議）」もじバナードゲーム
⑯ 沖縄県精神保健福祉士協会	①精神保健福祉士の職能紹介 ②精神保健福祉士及び医療に関する相談 ③幻覚のバーチャル体験 ④ストレスチェック
⑰ 日本健康運動指導士会 沖縄県支部	①運動機能測定（立上がり機能測定含む4項目程度） ②測定結果に基づく運動相談 ③様々な健康体操の体験（集団指導）
⑱ 沖縄県介護支援専門員協会	①VR認知症体験 ②足腰の不自由な方や歩行持久力の弱い方でも参加できる電動車いすやセニアカーで場内ブースをラウンドできるプログラム ③介護相談、自分らしい人生を送るために（ACP）

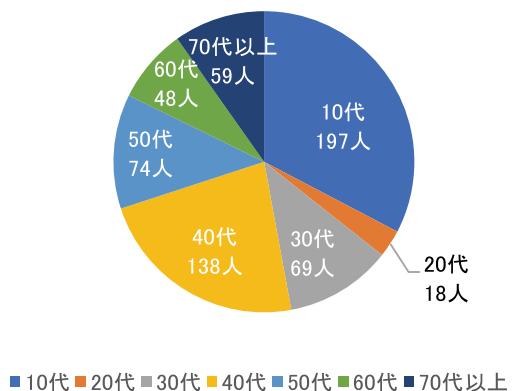
アンケート集計結果(集計数 650人)

2025.8.17(日)

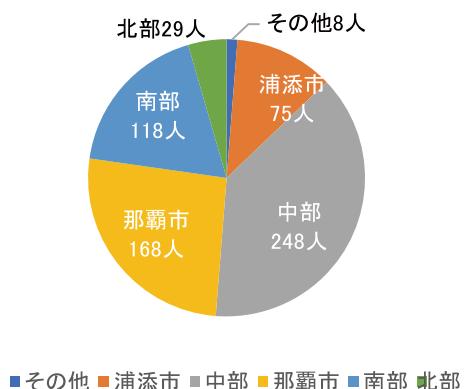
Q1: 性別を教えてください



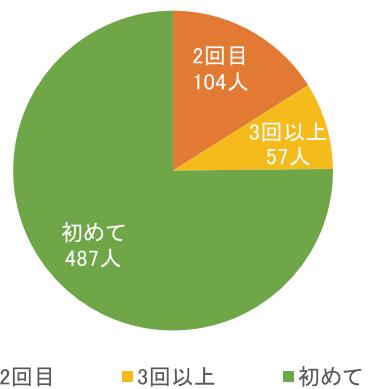
Q2: 年齢を教えてください



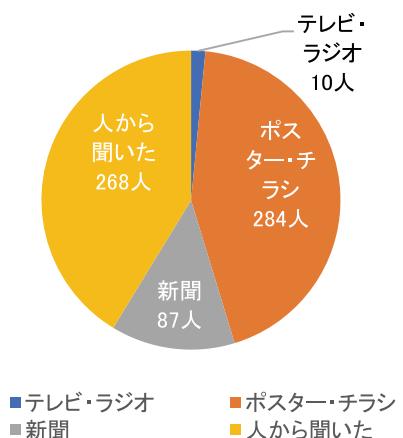
Q3: 居住地を教えてください



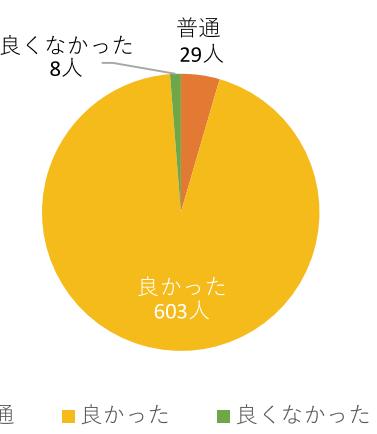
Q4: 当フェアに何回参加されていますか



Q5: 当フェア開催は何でお知りになりましたか



Q6: 今回のフェアの感想を教えてください



本会ブースの催し物・会場風景

